

<様式>

学校名	山形市立第一小学校 山形市本町一丁目 5 番 24 号 Tel622-0651 FAX633-9301	校長	江川 久美子
		研究主任	津藤 美加
研究主題	くらしと学びをつくる子どもの育成（3年次）		
研究主題設定の理由	<p>本校では、学校教育目標として「体・徳・共・知・美の調和のとれた人間性と、確かな学力を身につけた児童を育成する」ことを掲げ「違いを認め 切磋琢磨しながら 誰もが成長できる学校」をめざして教育活動に取り組んでいる。</p> <p>くらしと学び、は常に密接に関わり合っており、教育課程全体をマネジメントしていくことが子ども達の「くらしと学びをつくる力」に繋がっている。</p> <p>昨年度は、子どもにつけたい資質・能力という視点で教育課程を見つめ直し、授業改善に取り組んだ。コロナ禍の影響で活動に制限がある中でも、どんな資質・能力を育てていくかという視点から教育課程を見つめ、どんな手立てが取れるかを吟味して子どもと一緒に活動を進めていった。</p> <p>今年度は、引き続き「くらしと学びをつくる子ども」の育成を目指し、子ども達の主体性をより高め、授業とくらしの環流を大切にしていきたいと考える。</p>		
研究の重点	<p>教育課程全般を研究対象とし、子どもがより主体的に学び、よりよいくらしをつくっていきけるよう、昨年度の研究や子どもの姿を受け、今年度の学校教育の重点目標を設定した。</p> <p>○挑戦 より主体的に課題解決に取り組む子ども</p> <p>○思いやりスペシャル 多様性を認め、相手意識をもって行動できる子ども</p> <p>○いつもつなげて考える 様々な場面で学びを使う、くらしと学びをつなげる子ども</p> <p>これらの資質・能力を育成していくために、教職員全員で授業改善に取り組み、確かな学力を子どもにつけていく。学びでつけた力をくらしで使うことで、「くらし」と「学び」が相互に関わり合いながら高まっていくことを、単元の評価や行事での振り返り（わたしのあゆみ・キャリアパスポート）、子どもの生活場面での様子（Q-Uテスト、行動の変容）から見取り、検証していく。</p>		
研究の内容・方法	<p>（1）学びをつくる→確かな学力を子どもにつける 授業をデザインしよう</p> <p>見方・考え方を働かせた学習活動を意識した授業作り 各教科等の特性に応じた物事を捉える視点や考え方を子ども達に意識させる。 繰り返し同じ「見方・考え方」で思考する経験を積み上げることで、子ども達が自分で「見方・考え方」を働かせることができるようになる。学びの場面で各教科等の「見方・考え方」を働かせることがくらしをつくることの土台となり、生活場面で使ったりよりよいくらしに生かしたりできるようになるのではないかと考える。</p> <p>資質・能力ベースの単元作り、評価・ふり返り 私たちが単元でつけたい資質・能力を明らかにし、単元のゴールから評価規準・授業デザインをし</p>		

ていく。それにより、子ども達が見通しをもって課題解決に取り組んだり、資質・能力ベースのふりかえりを自分の成長で実感したりできると考える。

個に応じた指導・個別最適な学び

昨年度取り組んだ「単元内自由進度学習」では、自分で学習の予定を立て取り組むことで子ども達の自律性や学習の自己調整力が育つという成果が得られた。他にも、個に応じた指導・個別最適な学びにつながるものとして、ICTの活用や習熟度別学習に取り組んだ。今年度も子ども達の実態に合わせて、それらを年間カリキュラムに位置づけ効果的に取り入れていく。

研究チーム

低学年・中学年・高学年・おもさか・ことば で授業研究を進める。

外部講師の派遣を要請する授業研究会を年3回実施する。

- ①6月 個別最適な学びの実践
- ②8～9月 教科の見方・考え方を働かせた授業づくり
- ③11月～12月 学びの深まり

職員全体の学びとして、全体研修を行う。

- ・特別支援に関わる授業
- ・言語通級に関わる授業

授業力向上のために、チームで見合う授業を全員が年1回以上行う。各担任が年間カリキュラムの中に位置づける。

(2) くらしをつくる→カリキュラムマネジメントを常に意識して

- ・子ども達につけたい資質・能力から教育課程、学級経営案を作成する。
- ・活動や行事の振り返り（わたしのあゆみ・キャリアパスポートを意識する）
- ・子ども達が試行錯誤しながらよりよいものをつくりあげることができるよう、十分な時間を確保する。

研究の計画

5月	研究全体会（今年度の研究の重点、進め方の共有）
5月中	学級カリキュラムの作成
6月29日	提案授業① 全体研修会「個別最適な学びについて」
夏期休業中	研修会（NRT・全国学テ分析、アクションプラン） （生徒指導と学級づくりに関わる研修）
9月	提案授業②
12月	提案授業③
1月	研究の成果について検証
2月	今年度のふり振り返り・次年度に向けて
3月	研究のまとめ 研究実践集作成